

**平成29年度  
徳島県農林水産基本計画レポート  
＜概要版＞**



**平成30年8月  
徳島県農林水産部**



## 1 農業の担い手育成及び確保

- 専門高校から農業大学校、徳島大学へと連なるキャリアアップシステムの充実やアグリサイエンスゾーンの推進による、実践力の高い農業人材を育成
- 国の「農業次世代人材投資資金」の活用やインターンシップの充実、農業法人等による技術習得研修を支援
- 女性や障がい者、高齢者など多様な人材を活用した労働力確保マッチングシステムを構築



インターンシップ

### ○新規就農者数（累計）

⑳27327人⇒㉑611人（㉒1,330人）

### ○農業系大学生等によるインターンシップ参加者数（累計）

⑳27152人⇒㉑452人（㉒775人）

## 2 林業の担い手育成及び確保

- 第2期目となる「とくしま林業アカデミー」での即戦力人材を育成するとともに、女性参入を促す交流会等の開催や県内高校生等への出前授業・林業体験を通して、新たな担い手を確保
- フォレストサイエンスゾーンでの実践的な技術研修や、より高度な現場研修により、就業者の技術力向上を推進
- 林業の担い手や木造建築の人材等の育成拠点となる「林業人材育成棟」を平成30年3月竣工、同4月開設



とくしま林業アカデミー

### ○新規林業就業者数（累計）

⑳2764人⇒㉑151人（㉒240人）

### ○「とくしま林業アカデミー」の修了者数（累計）

⑳27-人⇒㉑24人（㉒70人）

## 3 水産業の担い手育成及び確保

- マリンサイエンスゾーンの人的・物的資源を活用しつつ、第1期目となる「とくしま漁業アカデミー」や、「漁業人材育成プログラム」において、即戦力となる経営感覚に優れた漁業者を育成
- 「とくしま漁業就業マッチングセンター」を活用し、漁業就業を促進するとともに、経営が不安定な就業初期の青年漁業者等に対する定着を支援



漁業現場研修

### ○新規漁業就業者数（累計）

⑳27237人⇒㉑284人（㉒360人）

### ○「とくしま漁業アカデミー」の修了者数（累計）

⑳27-人⇒㉑7人（㉒20人）

## 1 水田農業の振興

- 大規模経営農家の育成・支援を促進するとともに、耕畜連携の強化、酒米産地の育成を推進
- 高温耐性品種「あきさかり」の本格的導入による品質向上や、県産米の魅力発信など、売れる米づくりを推進するとともに、輸出用米の作付け推進、米粉や米ゲルを用いた商品開発、地酒ブランド「阿波十割」の消費拡大の支援など、県産米の需要を促進



県産酒米使用地酒ブランド「阿波十割」

○水稲新品種（高温耐性）の栽培面積 ②⑦23ha⇒②⑨474ha（③②1,000ha）  
○県産酒米を使用した地酒のブランド化 ②⑦-件⇒②⑨25件（③②30件）

## 2 園芸農業の振興

- 品目毎の課題解決プログラムの策定などによる産地や流通の構造改革を実践
- 共同選果施設や「きゅうりタウン構想」の実現に向けた施設整備を進めるなど、低コストかつ、高品質で安定生産が可能な「徳島型次世代園芸モデル」を構築
- 実需者ニーズに応じた産地づくりによる販売力強化



枝豆の共同選別施設

○課題解決戦略推進 ②⑦-品目⇒②⑨2品目（③②12品目）  
○藍の作付け面積拡大（累計） ②⑦16ha⇒②⑨16ha（③②25ha）

## 3 畜産業の振興

- 規模拡大やグローバル化に対応するためのブランド化や経営転換等を支援するとともに、県産畜産ブランドの増産・販売拡大対策を推進
- 「畜産GAP」，「農場HACCP」の認証取得など、国内外の需要を取り込むための環境整備を促進



阿波牛

○JAS等取得件数（累計） ②⑦4件⇒②⑨6件（③②6件）  
○「阿波牛」出荷頭数 ②⑦2,702頭⇒②⑨2,855頭（③②2,950頭）

## 4 林業及び木材産業の振興

- 「新次元林業プロジェクト」を展開し、路網整備や搬出間伐を進め、主伐にも対応した先進林業機械の導入や木材加工施設の効率化、大幅に拡大する木質バイオマスの供給体制の整備などを支援
- 「木育広場」など県民の木づかい意識の醸成を図るとともに、東京オリ・パラに向け、大都市圏への県産材の需要開拓を実施、「選手村ビレッジプラザ」への県産材利用が決定



高性能林業機械

○県産材の生産量 ②⑦32.4万m<sup>2</sup>⇒②⑨37.5万m<sup>2</sup>（③②48万m<sup>2</sup>）  
○木育拠点「すぎの子木育広場」の創設（累計） ②⑦5箇所⇒②⑨15箇所（③②20箇所）

## 5 水産業の振興

- 浮魚礁の設置や、産学官連携による漁業振興拠点として「県有種苗生産施設」の生産性向上を図るなど、漁獲量の向上に向けた取組み等を積極的に展開し、高品質で安全・安心な水産物の安定供給を推進
- 畜養技術の開発に加え、県産水産物の認知度向上や、食育・魚食普及による消費拡大

### ○水産物出荷・流通体制施設等の整備（累計）

②78箇所⇒②911箇所（③213箇所）

### ○アワビ種苗放流個数（累計）

②71,360千個⇒②91,818千個（③2,400千個）



徳島の活鰻料理  
味わいキャンペーン

## 6 オープンイノベーションの加速

- 農林水産3分野のサイエンスゾーンにおいて、産学官連携による「知」と「技」の集積と相互の融合を図ることにより、ブランド力強化のための新品種や生産力向上に資する新技術の開発など、未来を切り拓く新たなイノベーションを創出
- AI・IoTなど新技術を活用したスマート農林水産業の研究に着手
- 開発された技術についての現場への速やかな実用化と普及を促進



次世代型園芸施設

### ○「徳島発・次世代技術」創造数（累計）

②750件⇒②960件（③275件）

### ○新品種の開発数（累計）

②713件⇒②914件（③217件）

## 7 安全・安心な食料の安定的供給

- 東京オリ・パラを契機とした「こだわり農産物」の需要拡大に対応するため、GAP認証取得を推進
- 農薬の適正使用の徹底など、環境に配慮した持続可能性の高い農業を推進、「エシカル農産物」をPR
- 家畜伝染病の発生予防・まん延防止に向け、防疫演習や研修会を実施するとともに、防疫資材の備蓄や検査機器の整備等、防疫体制を強化

### ○農水省GAPガイドライン準拠以上の認証件数（累計）

②714件⇒②935件（③250件）

### ○家畜伝染病発生に備えた防疫演習・研修会等の実施

②711回⇒②911回（③211回）



環境に配慮した農産物等の  
PRコーナー

## 8 食育・地産地消の推進

- 関係機関や県民との協働により、日本型食生活や郷土料理をはじめとする地域の食文化などの情報を発信、「とくしま食育フェスタ」などのイベント開催
- 食に関する講習会や県産食材を使った料理教室、「野菜たっぷり料理レシピコンクール」を開催し、若者の食育・地産地消に対する気運を醸成

### ○地域食材魅力発信型直売所の整備（累計）

②72店⇒②96店（③27店）



料理教室

## 1 挑戦するとくしまブランドの展開

- マーケットイン型の生産・販売を推進する「とくしまブランド推進機構（地域商社阿波ふうど）」、東京渋谷に開設した情報発信と交流の拠点「Turn Table」に加え、機動力を活かし全国でPR活動を展開する新型キャンペーン車両など、本県ならではの強力な「推進エンジン」をフル活用することで、本県の豊かな食「阿波ふうど」の認知度向上と販売拡大を推進

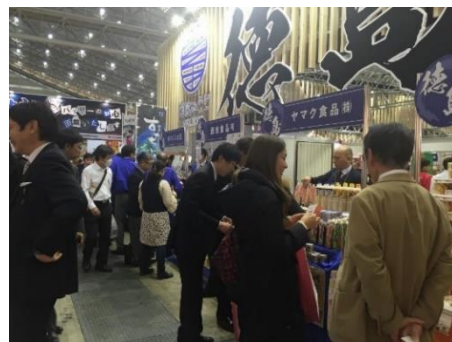


Turn Table

○「とくしま特選ブランド」選定数  
②⑦77品⇒②⑨111品（③②100品）

## 2 6次産業化の促進

- 農林漁業者の6次産業化における課題解決を図る「6次産業化プランナー」の派遣、首都圏バイヤーを招聘した研修会や産地商談会の開催、首都圏での大規模商談会への出展等を通じた、マーケットインによる「売れる商品づくり」の推進と販路拡大を支援
- 「とくしま藍サミット2017」をはじめとするイベント等の実施や、首都圏での藍製品の展示販売や藍染め体験などのプロモーションにより、藍・食藍の魅力を発信
- オープンラボ機能を備えた「六次産業化研究施設」の整備や教育・研究機関や企業等との連携強化により、6次産業化を促進



展示商談会

○農工商連携等による6次産業化商品開発事業数（累計）  
②⑦209件⇒②⑨273件（③②380件）

○藍を活用した食品等開発数（累計）  
②⑦9件⇒②⑨18件（③②29件）

## 3 海外展開の促進

- 「新たなマーケットの開拓」や「販売ルートの強化」を進めるとともに、意欲ある若手農林漁業者が行う海外展開を支援し、輸出に取り組む事業者を発掘・育成
- 品質安定や価格競争力強化のため、「海上輸送試験」や「現地貯蔵試験」を実施
- 台湾など東アジアで展開する「県産材ショールーム」を活用し、県産材製品の輸出を促進



とくしま食材サロン会  
（平成29年10月、フランス）

○農林水産物等輸出金額

②⑦6.1億円⇒②⑨11.3億円（③②16億円）

○ハラル認証商品・サービス数

②⑦43商品⇒②⑨147商品（③②65商品）

## 1 農業生産基盤の整備及び保全

- ほ場の整備、農業用水のパイプライン化等の農業生産基盤の整備を推進、老朽化した用排水施設の長寿命化・耐震対策等を実施
- 「農地中間管理機構」の活用により、多様な担い手への農地の集積を促進、地域の実情にあった新品目の導入実証を支援するなど、耕作放棄地の発生防止及び解消を推進

○ほ場の整備面積（累計）

②⑦6,839ha⇒②⑨6,862ha（③②6,990ha）



大区画化されたほ場

## 2 林業生産基盤の整備及び保全

- 森林境界の明確化や森林経営計画の策定促進を行うとともに、林道・林業専用道・森林作業道等の路網整備を推進
- 保安林、県版保安林の指定を進め、治山事業などを通じて機能を維持増進

○林内路網開設延長（累計）

②⑦7,242km⇒②⑨7,567km（③②7,950km）



林内路網整備

## 3 漁業生産基盤の整備及び保全

- 漁港及び海岸の整備を計画的に推進
- 漁港施設等の長寿命化やライフサイクルコストの最小化、更新コストの平準化を図る対策を推進
- 掃海作業を支援、稚魚の育成場であり水質浄化機能も有する藻場の造成を推進

○老朽化対策に着手した漁港海岸・漁港施設（岸壁等）数（累計） ②⑦4箇所⇒②⑨11箇所（③②17箇所）



漁港整備

## 4 南海トラフ・直下型地震への対応

- 海岸保全施設の調査、補強・整備及び、老朽ため池等の整備を推進
- 「農業版BCP」の実効性の向上や津波浸水被害関連をはじめとする、防災・減災対策関連の「重点エリア」における地籍調査を一層促進
- 「県漁業版BCP」に基づき、漁業関係団体におけるBCP作成を支援、海上避難訓練による漁業者の安全確保対策を強化



土地改良区が行う  
情報伝達訓練

○「農業版BCP」実地訓練等参加者数（累計）

②⑦247人⇒②⑨478人（③②700人）

○「漁協版BCP」の作成数（累計）

②⑦9件⇒②⑨14件（③②20件）

## 5 自然災害等への対応

- 台風・豪雨等による荒廃林地の復旧、山地災害の未然防止や地すべり防止区域における被害の防止・軽減対策を実施するとともに、危険箇所の日常点検等を推進し、ハード・ソフトの両面から計画的に防災・減災対策を実施
- 流木被害の軽減対策として、緊急点検の結果に基づき、流木の発生原因となる「渓流内」の不安定な樹木除去を推進

○山地災害の危険性が高い箇所の調査・点検パトロール実施箇所数 ②⑦208箇所⇒②⑨670箇所（③②1,108箇所）



山地災害危険地区の  
パトロール

## 1 多様な主体による協働活動と農林水産業への参画

- 県民等が農林水産業への理解を深めるため、農林水産業体験や学習の場を提供
- 企業・団体等との協働の森づくりや、県、市町村、林業団体をはじめボランティアや企業が参画する「とくしま森林づくり県民会議」による県民総ぐるみの森林づくりを推進



県民参加型の森づくり活動

○農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定数（累計）

②⑦52協定⇒②⑨63協定（③②67協定）

○県民参加による森づくり参加者数（累計）

②⑦508人⇒②⑨2,604人（③②3,000人）

## 2 都市農村交流と移住・定住の促進

- グリーン（ブルー）・ツーリズムインストラクターの育成や、農林漁家民宿の開業支援を行うとともに、「にし阿波の傾斜地農耕システム」の世界農業遺産認定を契機とするインバウンドや体験学習民泊利用者の増大に対応するための研修会を実施
- 地域住民や農山漁村（ふるさと）協働パートナーなど、県民との協働活動を通じて交流を促進



農林漁家民宿

○とくしま農林漁家民宿数等の体験宿泊者数（累計）

②⑦3,190人⇒②⑨3,713人（③②3,200人）

## 3 中山間地域等への支援

- 「日本型直接支払制度」を効果的に活用するとともに、住民自らが行う「魅力創生ビジョン」の作成から実践までの支援、きめ細やかな生産基盤や生活環境の一体的な整備を実施
- 「とくしま林道ナビ」掲載情報を充実させ、市町村との連携によるPRイベントを開催



未来ある農山村づくり  
（ワークショップ）

○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数

②⑦3地区⇒②⑨9地区（③②18地区）

## 4 鳥獣による被害の防止

- 地域における鳥獣被害対策指導人材の育成，集落ぐるみでの防護対策を推進するとともに，「徳島県鳥獣被害防止センター」を中心に捕獲対策も強化
- 解体処理講習会等による人材育成や，加工品開発の支援，「阿波地美栄フェスタ」開催などのPR活動による需要拡大



モデル集落の育成  
(集落点検)

### ○野生鳥獣による農作物被害額

②7123百万円⇒②9111百万円 (③292百万円)

### ○「阿波地美栄」取扱店舗数

②723店舗⇒②932店舗 (③42店舗)

## 5 地球環境の保全への貢献

- 自然エネルギーを活用した発電施設の導入支援や，バイオマスの有効利用を検討・促進
- 使用済み農業用フィルムの安定的な処理体制の確立や農業者への意識を啓発
- 間伐や植栽などの森林整備を実施し，針広混交林・複層林への誘導，広葉樹林の整備を推進



太陽光発電施設

### ○補助事業を活用した自然エネルギーの導入地区数

②710地区⇒②911地区 (③214地区)

### ○バイオマス利活用モデル地区数(累計)

②732地区⇒②937地区 (③36地区)

## 6 地球温暖化への対応

- 地球温暖化に適応し，高温環境下でも安定した生産を行うため，高温耐性を持つ水稻品種「あきさかり」や高水温にも強いワカメなど，新品種の導入促進及び新技術を開発
- 台風や集中的な豪雨による災害の未然防止のため，農業用排水施設，農業用ため池及び治山施設を整備・保全を推進



徳島県奨励品種に認定  
「あきさかり」

### ○新品種の開発数(累計) 【再掲】

②713件⇒②914件 (③17件)